

PROFILE

施設	偕行会リハビリテーション病院
所属部署	3階病棟
入職年	2019年入職
氏名	H・Aさん

急性期病院の消化器外科、内科で6年間看護師として経験を積む。

もっと患者さま1人ひとりとの時間を大切にしたいと思い、回復期である偕行会リハビリテーション病院へ入職。

今は育児と両立しながら仕事に励んでいる。

①入職して2年、回復期ならではのやりがいを感じています

急性期での経験を経て、回復期で働くH・Aさん。

急性期と回復期では看護師としてやりがいを感じる瞬間に違いがあるという。

(H・Aさん)

～急性期で働いていた時～

「急性期病院で勤務していた時は、前日に手術した患者さまや急性期の症状で動けなかった患者さまが、翌日には動けるようになり、あっという間に回復していく過程に看護師として携わることによりやりがいを感じていました。」

～回復期で働く今～

「回復期では全くの寝たきりだった患者さまが、時間をかけて歩けるようになったり、自分で食事を摂れるようになったりとADLが改善した時や、退院時に笑顔だったり、泣いて喜びながら帰っていかれたりするところを見ると看護師をやっていて良かったなと感じます。」

急性期と比べ回復期では退院までのスピードがゆっくりで、初めはその差に慣れなかったというH・Aさん。

偕行会リハビリテーション病院入職当初のことをこう振り返る。

(H・Aさん)

「入職して1、2か月は患者さまが何かしたそうにしていると、すぐ手助けをしてしまっていました。」

そんな中、先輩が患者さまに見守りながら関わっている姿を見て、回復期では患者さまがやりたいことをすぐ手助けするのではなく、自分でできることを増やしてもらうためにも見守ることが大事だと学びました。

そのため今では患者さまを見守りながら寄り添う看護を意識しています。」

②自分に合ったキャリアステージが用意されています

偕行会グループは急性期、回復期、慢性期、在宅まで幅広く施設を持っており、希望があれば施設間の異動も可能である。

H・Aさんは偕行会グループへ入職をした時に、看護師としてキャリアを積む上でここに魅力を感じたそう。

(H・Aさん)

「急性期を経験し今は回復期で働いていますが、私は常に動いていたい性格なのでいつかは急性期に戻りたいなと思っています。

今は子供が小さいので難しいですが、育児が落ち着いたタイミングで施設間の異動も考えています。」

家庭とのバランスを考えながら将来的には、偕行会グループの強みである施設間異動を活用していきたいと話すH・Aさん。

急性期の病院から回復期の偕行会リハビリテーション病院に転職した経験を振り返り、同じように転職や異動を考えている方に伝えたいことがあるという。

(H・Aさん)

「急性期の看護は治療がメインで急を要することが多く、ある程度1人で判断し行動することを求められます。

そのため患者さまの退院後のことまで考えるということはあまりありませんでした。

しかし、回復期では在宅復帰に向け時間をかけて看護をしていくため、他職種と協同して患者さまの入院時から退院後の生活のことまで考え、チームでケアをしていきます。

そういった考え方の違いをあらかじめ知っておくと戸惑いも少なくなるかもしれません。」

③育児と仕事を両立できる環境

偕行会の福利厚生の一つである院内保育所を現在利用しているH・Aさん。

利用した感想を教えてください。

(H・Aさん)

「私は子供がまだ離乳食も始まらない小さな頃からフルタイムで職場復帰しました。

院内保育所は8時～19時までの365日利用が可能で、日曜・祝日でも利用ができます。他の保育所は日祝休みで利用料金も高いと聞きますが、当院の保育所は家計に優しく、雑費もかからないのでとても助かっています。ちなみに延長料金もありません。また、夜勤がある場合でも偕行会グループ内の急性期病院である名古屋共立病院の保育所が無料で利用できるため、安心して働くことができると思います。」

施設間異動や福利厚生などを活用しながら、自分の理想の看護師像やライフスタイルの変化に応じた働き方をし、これからも看護師として働き続けていきたいと話すH・Aさん。
【患者さまとそのご家族に寄り添う】ことを大切にしながら、今日もチームで患者さまに向き合っている。